

令和 6 年度 学校関係者評価報告書

大阪市立大隅西小学校協議会

1 総括についての評価

本年度の学校の自己評価結果は妥当である。

令和 6 年度の大阪市学力経年調査の結果は、3 年生以外はすべて大阪市の平均を下回ることになった。

来年度も引き続き「主体的対話的で深い学びのある授業づくり」をさらに進め、学び合いの充実した学び舎をつくりたい。

体育の授業や休み時間には、楽しく運動することができてきただので、今後もなわとび週間やかけあし週間の取り組みのさらなる充実をめざしたい。

2 年度目標ごとの評価

年度目標：【安全・安心な教育の推進】

最重要目標 1 【安全・安心な教育の推進】

①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95% 以上にする。

(令和 6 年度調査 97.5% ○)

②令和 3 年度と比較し、不登校児童の在籍比率を 1 % 以下にする。 (R6 0.5 ○)

③令和 3 年度と比較し、不登校児童の改善の割合を 90 % 以上にする。 (R6 100 ○)

最重要目標 1 【安全・安心な教育の推進】

■全市共通目標（小・中学校）

①小学校学力経年調査における「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を 95% 以上にする。

令和 3 年度 全国学力状況調査 6 年生のみ 97.5%

令和 4 年度 全国学力状況調査 6 年生のみ 92.0%

令和 5 年度 学力経年調査 97.4%

令和 6 年度 学力経年調査 97.5% **達成**

②年度末の校内調査において、不登校児童の在籍比率を前年度より減少させる。

③年度末の校内調査において、前年度不登校児童の改善の割合を増加させる。 **達成**

■学校園の年度目標

①年度末の校内調査において、学校で認知したいじめについて、解消した割合を 100 % にする。 **達成**

②小学校学力経年調査、学校アンケートにおける「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、「当てはまる（どちらかといえば、当てはまる）」と答える児童の割合を昨年度 90% 以上にする。 (R4 91.6 R5 95.1 R6 87.0)

年度目標：【未来を切り拓く学力・体力の向上】

最重要目標 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

(R 3 71.5 R 5 84.2 R 6 72.3)

②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も令和3年度より10ポイント向上させる。

③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を令和3年度より10ポイント向上させる。

最重要目標 2 【未来を切り拓く学力・体力の向上】

■全市共通目標（小・中学校）

①小学校学力経年調査における「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する児童の割合を40%以上にする。

(経年 3～6年) R 3 71.5 R 4 84.3 R 5 84.2 R 6 72.3

②小学校学力経年調査における国語および算数の平均正答率の対全国比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より2ポイント向上させる。

③小学校学力経年調査における「外国語（英語）の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を74%以上にする。(R 4 73.2 R 5 63.2 R 6 54.9)

④小学校学力経年調査における「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」に対して、最も肯定的な「好き」と回答する児童の割合を75%以上にする。

(R 4 74.3 R 5 85.7 R 6 83.0)

⑥小学校学力経年調査における「理科の勉強は好きですか」に対して、肯定的に回答する児童の割合を83%以上にする。(R 4 82.5 R 5 71.7 R 6 68.1)

年度目標：【学びを支える教育環境】

最重要目標 3 【学びを支える教育環境】

①ICTの活用に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。

②デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。

③学習者用端末を活用した家庭学習を年1回実施する。

④協働学習支援ツールを用いた学習を学期1回実施する。

⑤教職員の働き方改革に関する目標を設定し、100%の達成をめざす。

⑥年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を30%以上にする。

⑦ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

⑧「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を30%以上にする。

最重要目標3【学びを支える教育環境】

■全市共通目標（小・中学校）

① I C Tの活用に関する目標を設定する。

→ 達成

②デジタル教材を活用した学習を週1回実施する。

→ 達成

③学習者用端末を活用した家庭学習を年に1回程度実施する。

→ 達成

④協働学習支援ツールを用いた学習を学期に1回程度実施する。

→ 達成

⑤教職員の働き方改革に関する目標を設定する。

→ 達成

⑥年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を20%以上にする。

→ 達成

⑦ゆとりの日を週に1回設定・実施する。

→ 達成

⑧「学校園における働き方改革推進プラン」に掲げる教員の勤務時間に関する基準1を満たす教員の割合を20%以上にする。

→ 達成

■学校園の年度目標

① I C Tを活用した授業を週に3回以上行う → 達成

②始業式、終業式の実施日の弾力的運用を行う → 達成

3 今後の学校運営についての意見

運営の計画の最終評価について説明し理解を得られた。特に目標を達成できなかつた項目についてはその原因と今後の取り組みについて説明し、今後も取り組みを継続して進めていってほしいという意見とともに、委員の方々からも全面的に支援・協力していくという意見があつた。

・校内では授業改善に取り組み、主体的・対話的な授業になるよう取り組んでいる報告を行うとともに、学力向上に向けての実践を今後も継続していってほしいとの意見をいただいた。

・学校の取り組みを引き続き進めていくとともに、数値化できない学びを子どもたちは多く経験していることがある。今後も継続して取り組んでいってほしいとの意見をいただいた。